

—おいしいベランダ。番外編

まもり、夏の終わりに

エイリアンを食べる。

——ひざーハものを見つけてしまつた。

栗坂まもりは、ベランダで声を張り上げる。

あ、あ、亜瀬さん！」

しばらくして、ジャージに黒縁眼鏡の家主——亞鶴葉一一

が、難しい顔つきでやつてきた。

「なんだいつたい。虫でもいたのか？」

それどころじゃないですよ。もつとやばいものに寄生さ

れていますよこのベランダ！ 未知との遭遇で遊星からの物

「ミ、本氣で、エイリアンって感じで」

すまん 本気で意味がわからぬ
いいから見てくぞさーい、アノ!!

「いいが見つからぬ」

このベランダは、彼が育てている野菜の鉢でいっぱいだ。

窓際にはネットで這わせたニガウリの蔓が伸び、室内への

陽光を遮るグリーンカーテンを作っている。

「……どれ？」

だからアレですよ。あの、皮が気色悪いオレンジ色で、

中から真っ赤な内臓はみ出させてる、クリーチャー的な

緑色の葉っぱが茂る中で、反比例するかのようにどきつ、色づき、葉っぱが茂る中で、反比例するかのようにどきつ、

い色を垂れ流す物体は 嫌でも目にかかる

も、夏も終わってまだ終わ
れたつて感じでしょうか

何言つてんだ。これも二ガウリだぞ」

「？」

長身の葉一は、まもりでは手の届かない高さにあるブツ